

1 學期最終稿

日田市立

戸山

学校

令和7年8月6日

## 検証・改善フローシート

月ごとのや学期途中での検証・改善に繰り返し使用できます。

## 確認・検証・改善【 1 回目】

8月6日(水)実施

【学校の教育目標】		互いの成長を認め合いながら自ら道を拓く生徒の育成			資質・能力との関連		(評価 4:100%以上 3:80%以上100%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ※%は達成率)																																																												
【育成を目指す資質・能力】		問題発見・解決能力			担当	知識・技能	取組指標に対する 取組状況の確認			達成指標に対する 達成状況の確認			達成指標・取組指標の妥当性を 検証	評価	改善方法																																																				
重点目標	達成指標		重点的取組				取組指標		取組状況(エビデンス)		達成状況(エビデンス)		達成率		指標別	全体	考察	評価																																																	
基本的な内容を習得する力	○ 学力調査における正答率50%以上を70%以上 ※定期テストも同様 *R6.3学期末: 57%		学校	○ 自分の学び方を振り返り、基礎基本の習得に生かす。(自分の弱点をキュビナで克服)		研修部	○ 毎授業の5分間キュビナ、週2回のキュビナテスト、家庭学習の連動を図る。	○		1学期末教員アンケートにより、100%実施(5人中5人)	100%	1学期 学力調査・定期テストの正答率50%以上の割合(%) <table border="1"><thead><tr><th></th><th>国語</th><th>社会</th><th>数学</th><th>理科</th><th>英語</th><th>平均</th></tr></thead><tbody><tr><td>1年期末</td><td>100</td><td>100</td><td>88</td><td>100</td><td>75</td><td>93</td></tr><tr><td>2年期末</td><td>83</td><td>75</td><td>58</td><td>92</td><td>67</td><td>75</td></tr><tr><td>3年期末</td><td>89</td><td>89</td><td>56</td><td>67</td><td>78</td><td>76</td></tr><tr><td>2年算術力</td><td>83</td><td>42</td><td>67</td><td>50</td><td>75</td><td>63</td></tr><tr><td>3年全国</td><td>72</td><td>72</td><td>44</td><td>44</td><td>58</td><td>58</td></tr><tr><td>教科平均</td><td>86</td><td>76</td><td>62</td><td>77</td><td>74</td><td>75</td></tr></tbody></table>			国語	社会	数学	理科	英語	平均	1年期末	100	100	88	100	75	93	2年期末	83	75	58	92	67	75	3年期末	89	89	56	67	78	76	2年算術力	83	42	67	50	75	63	3年全国	72	72	44	44	58	58	教科平均	86	76	62	77	74	75	○学校【取組指標】 ・5教科担当者はによる毎時間キュビナによる基礎基本定着問題への取組、週2回のキュビナテストによって基礎基本の定着が図られている。	4	○学校【取組指標】 ・学校でのキュビナ学習と家庭学習との更なる連動を図るため、授業での振り返りの充実	○学校【取組指標】 ・学校でのキュビナ学習と家庭学習との更なる連動を図るため、授業での振り返りの充実 ○学校【取組指標】 ・「学び方シート」の取組の継続 ○家庭【取組指標】 ・家庭学習に対する保護者の関心を高め、コメントに加え会話の推進も図る ○地域【取組指標】 ・学校運営協議会や公民館等と連携しながら学校の取り組みについての情報発信を継続	
	国語	社会	数学	理科	英語	平均																																																													
1年期末	100	100	88	100	75	93																																																													
2年期末	83	75	58	92	67	75																																																													
3年期末	89	89	56	67	78	76																																																													
2年算術力	83	42	67	50	75	63																																																													
3年全国	72	72	44	44	58	58																																																													
教科平均	86	76	62	77	74	75																																																													
○ 「自分に合ったやり方を見つけ、家庭学習に取り組むことができている。」の「そう思う」の回答を50%以上 *R6.3学期末: 61%			○ 学び方(家庭学習)の把握			○ 保護者は自分に合った学び方ができているか様子を見守り、月に1回「家庭学習の振り返り」にコメントを書く。	○		1学期末教員アンケートにより、100%実施(5人中5人)	100%	1学期 学力調査・定期テストの正答率50%以上の割合(%) <table border="1"><thead><tr><th></th><th>国語</th><th>社会</th><th>数学</th><th>理科</th><th>英語</th><th>平均</th></tr></thead><tbody><tr><td>1年期末</td><td>100</td><td>100</td><td>88</td><td>100</td><td>75</td><td>93</td></tr><tr><td>2年期末</td><td>83</td><td>75</td><td>58</td><td>92</td><td>67</td><td>75</td></tr><tr><td>3年期末</td><td>89</td><td>89</td><td>56</td><td>67</td><td>78</td><td>76</td></tr><tr><td>2年算術力</td><td>83</td><td>42</td><td>67</td><td>50</td><td>75</td><td>63</td></tr><tr><td>3年全国</td><td>72</td><td>72</td><td>44</td><td>44</td><td>58</td><td>58</td></tr><tr><td>教科平均</td><td>86</td><td>76</td><td>62</td><td>77</td><td>74</td><td>75</td></tr></tbody></table>			国語	社会	数学	理科	英語	平均	1年期末	100	100	88	100	75	93	2年期末	83	75	58	92	67	75	3年期末	89	89	56	67	78	76	2年算術力	83	42	67	50	75	63	3年全国	72	72	44	44	58	58	教科平均	86	76	62	77	74	75	○学校【達成指標】 ・家庭学習の時間や質に個人差が見られる実態がある。まずは問題発見の意識を高めさせるとともに、他の生徒の好事例を参考にしながら、自分に合ったやり方を見つけ、課題解決能力につながる家庭学習に取り組ませていただきたい。	4				
	国語	社会	数学	理科	英語	平均																																																													
1年期末	100	100	88	100	75	93																																																													
2年期末	83	75	58	92	67	75																																																													
3年期末	89	89	56	67	78	76																																																													
2年算術力	83	42	67	50	75	63																																																													
3年全国	72	72	44	44	58	58																																																													
教科平均	86	76	62	77	74	75																																																													
○ 地域公開への積極的な参加		地域	○ 地域住民は学期に1回以上来校し、生徒の様子について学校と情報共有する。			○ 地域住民は学期に1回以上来校し、生徒の様子について学校と情報共有する。	○		1学期末保護者アンケートにより、肯定的評価が66%	66%	学力調査における正答率50%以上を70%以上 ※上記テスト結果より75%		107%	○家庭【取組指標】 ・生徒の家庭学習意欲が高まるような保護者の見守りやコメントを期待したい。	4																																																				
○ 「課題の解決に向けて自分に合った手法(調べ方、情報、手順など)を見出すことができた」の「そう思う」の回答を50%以上 *R6のデータなし			○ 思考力・表現力の育成		生徒指導部	○ 授業者は学期に1回以上、探究学習に取り組ませる。	○		1学期末教員アンケートにより、肯定的評価が100%(7人中7人)	100%	「課題の解決に向けて自分に合った手法(調べ方、情報、手順など)を見出すことができた」の「そう思う」の回答を50%以上 ※生徒アンケートの「そう思う」62%		124%	○学校【達成指標】 ・課題解決のやり方の習得については今後多くの経験を積ませていただきたい。	4	○学校【達成指標】 ・2つの指標の「そう思う」の割合がさらに高まるよう取組の継続																																																			
○ 協働的な学びの推進			授業者は単元に1回以上、学習班や研究班を活用した交流活動を設定し、学びの成果を振り返らせる。			○ 協働的な学びの推進	○		1学期末教員アンケートにより、肯定的評価が100%(7人中7人)	100%	「交流活動が課題の解決に役立った」の「そう思う」の回答を50%以上 ※生徒アンケートの「そう思う」64%		128%	○学校【取組指標】 ・授業での探究学習や交流活動の設定については取組が定着してきた。 ・学習班や研究班の効果的な活用が深まりつつある。		○学校【取組指標】 ・探究学習や交流学習については継続して取り組むとともに、教員側の効果的な支援の在り方についての検討																																																			
○ 「交流活動が課題の解決に役立った」の「そう思う」の回答を50%以上 *R6のデータなし			○ 親子会話の推進			○ 保護者は週に1回以上、学校生活の様子についての子どもとの会話の時間を持つ。	○		1学期末保護者アンケートにより、肯定的評価が94%	94%			128%	○家庭【取組指標】 ・親子会話の推進については肯定的評価は高い。より豊かな学校生活を送れるよう今後も推進していただきたい。	4	○家庭【取組指標】 ・学校生活の様子について親子間で会話することによって学校教育への関心の高まりを図る																																																			
○ 地域人材リストの活用		地域	○ 学校運営協議会と連携して、学期に1回以上ゲストティーチャーとして協力する。			○ 地域人材リストの活用	○	○	ゲストティーチャーの招聘 全校1回、学年で2回 計3回実施	100%			100%	○地域【取組指標】 ・各学年、学校に応じたゲストティーチャーの招聘ができるおり、教育の質の向上につながっていると実感しているのでこの取組を継続していただきたい。	4	○地域【取組指標】 ・学校運営協議会(学習活動支援部)と連携して、ゲストティーチャーを定期的に招聘して生徒に幅広い学習ができる機会を設定する																																																			
○ 「地域(周り)のために自分が役立った」の「そう思う」の回答を50%以上 *R6のデータなし			○ 生徒会による自治活動の推進		事業部	○ 担当者は学期に1回以上、学校生活向上につながる地域貢献活動を提案する。	○		1学期末教員アンケートにより、肯定的評価が88%(8人中7人)	88%	「地域(周り)のために自分が役立った」の「そう思う」の回答を50%以上 ※生徒アンケートの「そう思う」49%		98%	○学校【達成指標】 ・「地域(周り)のために自分が役立った」の「そう思う」の回答率を高めていただきたい。 ・学校内外での挨拶の推進については一定の効果が見られている。	3	○学校【達成指標】 ・自分以外の人の気持ちを考え行動できることで自己有用感や自己存在感の意識が高まるよう継続して取り組んでいただきたい																																																			
○ 友人や地域の方に気持ちの良い挨拶ができた」の「そう思う」の回答を75%以上 *R6.3学期末: 73%			○ 生活目標の振り返りの充実			○ 「あたりまえを磨くアンケート」で自己の成長を振り返らせる。	○	○	1学期末教員アンケートにより、肯定的評価が100%(7人中7人)	100%	友人や地域の方に気持ちの良い挨拶ができた」の「そう思う」の回答を75%以上 ※生徒アンケートの「そう思う」77%		103%	○学校【達成指標】 ・職員や生徒のアイデアを生かせる地域貢献活動を2学期も取り入れていきたい。		○学校【取組指標】 ・地域貢献活動については今年度からの新しい取組であり、継続して試みていきたい																																																			
○ 挨拶の推進			○ 保護者は月に1回、ふれあい挨拶運動に参加し、生徒の挨拶の様子を共有する。			○ 挨拶の推進	○		全保護者に協力いただき、当番制で実施(6月、7月実施)	100%			100%	○家庭【取組指標】 ・ふれあい挨拶運動への参加はよく、生徒の挨拶の様子を共有できため、生徒の挨拶についてアンケートでの肯定的評価が高くなつた	4	○家庭【取組指標】 ・ふれあい挨拶運動の継続																																																			
○ 地域と連携した挨拶の推進			○ 学期に1回以上、地域や公民館と連携して挨拶の様子を共有する。			○ 地域と連携した挨拶の推進	○	○	学校運営協議会や地域住民来校時に生徒のあいさつの様子について情報共有を行った	100%			100%	○地域【取組指標】 ・生徒の様子については常に共有できており、今後も継続していくとともに、改善策についても情報教諭していただきたい。	4	○地域【取組指標】 ・挨拶や地域貢献活動をきっかけとして地域住民と生徒のコミュニケーションの機会を増やしたい																																																			
【働き方改革の推進】	○ 「部活後1時間以内に退勤する」の回答80%以上 *R6.3学期末: 76%		学校等	○ 業務の見直し			○ 運営委員会は月1回時間外勤務の状況を把握し、検証と改善を行う。			運営委員会で勤務状況の検証・改善について共有した ノーギャバデーを月1回水曜日に設定	100%	「部活後1時間以内に退勤する」の回答80%以上 ※教員アンケートの肯定的評価75%		94%	○学校等【達成指標】 ・「部活後1時間以内に退勤する」の完全実施を目指していただきたい。 ・「時間外勤務の縮減を実感できた」の肯定的評価は高く個人の意識の高まりや業務改善が図られている。	3	○学校【達成指標】 ・2つの指標の「そう思う」の割合を高めていただきたい																																																		
	○ 「時間外勤務の縮減を実感できた」の回答60%以上 *R6のデータなし			○ ICTの有効活用(会議資料等の効率化)			○ 職員間の情報共有と連携を強化し、業務の効率化を図る。			会議や研修資料はシンプル上に保存・活用しながら効率的に会議を行った	100%	「時間外勤務の縮減を実感できた」の回答60%以上 ※教員アンケートの肯定的評価88%		147%	○学校等【取組指標】 ・職員同士の横のつながりやお互いの理解を大切にすることで業務の効率化や改善につながっている。	4	○学校等【取組指標】 ・働き方改革の推進にむけて、全職員でアイデアを出し合い、業務の見直しや改善に継続して取り組む																																																		